

## 平成30年度 共創による地域づくり推進協議会【議事要旨】

1. 開催日時 平成30年10月1日（月） 15:30～17:00
2. 開催場所 市役所15階 第4会議室
3. 出席委員 【出席委員7名】  
池見委員, 井原委員, 今井委員, 楠下委員, 平川委員, 森田委員,  
山田委員, (古賀委員欠席)
4. 傍聴者 なし
5. 議題 (1) 平成29年度の事業実施状況について  
(2) 平成30年度の主な事業について  
(3) 平成30年度自治協議会・自治会等アンケートについて  
(4) 意見・情報交換

### 6. 議事概要

#### **議題 平成29年度の事業実施状況について**

【委員】行政の自治活動への支援は充実してきていると思うが、それを受ける地域の受け手側が受け切れていないのが現状と思う。自治会等の地域へ情報が伝わるようにすることが必要ではないか。校区で研修会など実施しても、参加する人は少ない。行政等から地域への情報は多くあるが、地域住民へ情報を伝達する力が弱く十分に伝わっていないと危惧している。また、若い世代へ情報をうまく伝えられていないので、ICTなどを活用すればいいと思うが、発信する側が対応しきれていない。

南区においても、地域活動を行っている人に区長感謝状を贈呈する制度があり、さらに校区でも評価している。このような取組みは地域活動している人を評価する手段としていい方法だと考える。地域活動を応援している企業の選定については、どのようにしているのか。

【事務局】“ふくおか”地域の絆応援団の登録は、企業等からの申し出により登録している。また、セミナーを開催し、活動の報告の場や情報共有の場も設け、応援団への登録を呼びかけている。感謝状については、応援団の登録の中から選定する方法と、地域からの推薦により贈呈している。応援の輪を広げていけるように、幅広く対応していきたいと考えている。

【委員】公民館の予算が年々削減されているが、人を集めるためには公民館の事業が重要と思うが、そのためには予算が必要であり、十分な予算措置をお願いしたい。

【事務局】全市的に厳しい財政状況にあるが、その中でもできる限り対応していきたい。

【委員】公民館の職員の対応の仕方等で、地域の受け止め方も変わるところがある。予算がないから協力しないでは、地域も困る。

【事務局】市としても、公民館は地域にとって大きな財産だと認識しているので、できる限り対応していきたい。

【委員】公民館は、校区によって利用率などの差があるのは確か。持続して事業を実施することが重要だが、公民館だけでは困難であり、地域と一緒に実施しないと難しい現状にある。

【委員】市の予算措置が困難であれば、サークルなど公民館利用者に少し負担してもらう事も必要ではないか。駐車場や野球場などの市営施設も有料でやっている。

【事務局】現在も地域外や目的外利用は有料としているが、今後も予算確保にも努め、公民館事業も利用しやすい内容に整理していきたい。

#### **議題 平成30年度の主な事業等について**

【委員】防災アプリについては、既存の市の防災関連のアプリとの連動はできるのか。

【事務局】既存の地図アプリYAMAPを活用した防災情報は、オフラインでも避難所の位置等が確認できるものであるが、連動はしていない。防災アプリは、熊本地震を機に開発したものであり、災害時に指定外避難所でも物資などのやり取りができるもので、もっと総合的なもの。現在は、全市一斉に災害モードに切り替わるようになっているが、地域別での災害モードの切り替えや、地震以外にもより幅広く対応できるよう検討を進めている。また、日ごろ使っていないものを、災害時に急に使うのは難しいので、日ごろから公民館や地域のグループで情報ツールとして利用できるようにしている。

【委員】回覧板だと途中で止まってしまったりすることもあるので、広報の機能などもあれば若い世代にも有効だと思う。

【委員】実際に使ってみないとわからないと思うが、アプリの研修会などはないのか。

【事務局】公民館のスマホ塾や防災・危機管理課で出前講演など実施している。災害時には電話よりアプリの方がつながりやすいという事もあるので、高齢者にも使ってもらいたいと考えている。

【委員】高齢者がスマホをもっていないことが課題。スマホを持つ利点がないと、なかなか高齢者には浸透しないと思う。

【事務局】小学校でも子どもの見守りとして、ICTを活用した実証実験などを行ってお

り、ICTを活用した地域での防犯や防災などにも取り組んでいきたい。

【委員】公民館コラボLABはモデル館を決めて実施しているのか。

【事務局】3年間の事業期間で、各公民館の優れた取り組みなどを調査し、共有する仕組みをつくりたいと考えており、全館のヒアリングを行っている。

【委員】大学にも公民館からの相談があるが、大学や行政が入って課題解決するのではなく、公民館の人材育成や課題解決など地域の中で実行できるようなプロセスや仕組みを作ることが課題だと感じている。この事業には期待が持てる。

#### 議題 平成30年度自治協議会・自治会等アンケートについて

【委員】アンケートの結果は、公開する予定なのか。

【事務局】集計後は報告書にまとめ、自治協議会等へも配布する予定であり、市のホームページにも公開する予定としている。

【委員】報告書は、自治会長等にとっても非常に参考になる。アンケートはすべて確実に回答されているのか。

【事務局】前回の平成26年度では、自治協議会が約85%、自治会・町内会が約75%の回収率となっている。

【委員】アンケートの結果は、共創サミットで審議することや、別途シンポジウムのようなものを開催する予定などはあるのか。

【事務局】サミットなどで審議する予定はないが、この協議会や共創会議などご意見をいただきながら、分析のうえ次の施策に反映させていきたいと考えている。

【委員】自治会や自治協議会、行政がお互いに検証することが大事である。

#### 議題 意見・情報交換

【委員】今後、公民館館長と主事の力量が重要になってくると思う。主事は意見交換などできるネットワークがあると聞いているので、そういったものを活用して相談できるような仕組みがあればよいと思う。個人では解決できなくても、ネットワークの中で解決できるようなこともあると思うので、そういった仕組みがあると良い。

【委員】区ごとに、毎月の連絡会や研修会はあっている。

【委員】区を超えたつながりなどがあると良い。

【事務局】公民館館長と自治協議会会長の全市の集まりは、年1回開催している。

【委員】公民館では、生涯学習と地域活動の支援とどちらに力を入れたらよいのかという話がある。地域の担い手づくりや集まる場づくりに重点を置いていいのではないかと個人的には思っている。

【事務局】各区でいろいろな取り組みがあるので、情報共有に努めたい。

【委員】過去から、公民館の議論はあるが、少しずつ地域にシフトしてきているように感じている。

【委員】自治協議会と公民館が地域の両輪として、協力し合えばうまくいく。

— 了 —